

平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	地理学概論A(Introduction of Geography A)		授業コード	K004501
担当教員名	土居 晴洋		科目ナンバリングコード	
配当学年	2	開講期	前期	
必修・選択区分	必修(地理学概論A・Bどちらかを必ず取得)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	<p>板書事項は暗記するためのものではなく、自ら考えるための基礎である。現象の背後にある要因やメカニズムについて、考えることの楽しさや難しさを感じてください。</p> <p>「地理学概論B」を合わせて履修することが望ましい。</p> <p><input type="checkbox"/></p>			
受講心得	<p>講義において提示された地理学的見方・考え方を普段の生活の中で確認するように努力する。また、適宜、課題を課すので、期限内に提出する。 <input type="checkbox"/></p>			
教科書	なし			
参考文献及び指定図書	なし			
関連科目	地理学概論B, 地誌学			

授業の目的	<p>人間あるいは人間社会を時間と空間の枠組みの中で理解することが人文地理学の目的であることを認識し、複雑に変化を遂げる現代社会を地理学的視点から解釈するための理論や方法論を提示します。高校までの学校教育の「地理」の影響で、暗記科目ととらえられがちな「地理」のイメージを払拭し、現代社会を理解するうえで、地理学の見方・考え方が非常に有効であることを理解し、地理学的な見方・考え方の基礎を身につけることが本授業の目的です。 <input type="checkbox"/></p>
授業の概要	<p>地理学の全体像を理解したうえで、人文地理学を中心に学んでいきます。現代社会の基礎をなす産業や都市の特徴を、それがどこにあるかという空間的配置の様子からとらえます。また、人口や商品、情報などは空間的な移動を伴いますが、その動きの空間的特質を考察します。さらに人がどのような空間的な認識を持っているのか、歴史学とは異なる過去の時間断面の地域の様子のとらえから、地域の平等や不平等など、人文地理学の新しい研究動向を踏まえて、地理学の見方・考え方を身につけていきます。 <input type="checkbox"/></p>

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週： 地理学の概要	
第2週： 人間理解の学問としての人文地理学	
第3週： 配置の地理学1 配置の原理	
第4週： " 2 産業の配置	
第5週： " 3 都市の配置	
第6週： 動きの地理学1 人との空間的な動き	
第7週：	

"	2 人とももの動きの理論	
第8週:		
"	3 情報化と地域間の結びつき	
第9週:		
空間認識と地理学1	空間を認識すること	
第10週:		
"	2 地域と空間認識	
第11週:		
"	3 空間認識の発達過程	
第12週:		
時間と地理学1	人間行動と時間	
第13週:		
"	2 行動の地理学	
第14週:		
"	3 時間の地理学	
第15週:		
これからの人文地理学		
第16週: 期末試験		
期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	日常的な事象を認識し、地理学的な関心を持つことができる。
【知識・理解】	地理学の概念や基地理学の基本的な見方・考え方を習得している。
【技能・表現・コミュニケーション】	基本的な主題図や統計資料の読解と考察を行うことができる。
【思考・判断・創造】	地理学の見方・考え方をういて日常的な事象を考察することができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			5点	
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	40点		5点	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	10点	20点	5点	
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点		5点	
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	丁寧な作業の実施。技能の習得。
発表・その他 (無形成果)	積極的な授業への参加。